

(公財) 日本体操協会

平成30年度12月臨時評議員会議事録

1. 日 時 平成30年12月22日(土) 13時00分～14時40分

2. 場 所 岸記念体育会館 5F 504-505会議室

3. 出席者 <評議員>

出 席

大島斎礼、加藤澤男、瀧澤康二、長谷川輝紀、鷹西美佳、柳善二郎、長澤稔子、
崇島慎一、慶野峰晴、大橋英記、藤田正敏、渡邊一郎、渡辺栄一、森令子、
竹谷一、白石伸三、知念義雄

17名

欠 席

早田卓次、コシノヒロコ、林 直樹、望月克己、山岸弘宜

5名

<理事・監事>

出 席

二木英徳(会長)、塚原光男(副会長)、具志堅幸司(副会長)、石崎朔子(副会長)
山本宜史(専務理事)、竹田幸夫(監事)、高橋史安(監事)

7名

4. 資料の確認

報告事項

報告事項1 第三者委員会報告

報告事項2 特別調査委員会メンバー報告

報告事項3 提言事項検討委員会メンバー報告

その他

第1号議案 その他

5. 権限審査

定款第5章第24条に基づき、本評議員会は定員評議員22名、本日は、早田卓次さん、コシノヒロコさん、林 直樹さん、望月克己さん、山岸弘宜さんの5名が欠席ですので、本日出席評議員は17名で、評議員会開催の定足数(過半数)11名に

達していることを渡邊事務局長より報告した。

6. 二木会長ご挨拶

8月に起きたパワハラ問題に関し、まず世間を騒がせたことに対する謝罪を行う。第三者委員会の立ち上げの経緯、塚原光男副会長、塚原千恵子強化本部長への職務一時停止の説明及び、解除の経緯の説明。また、それに伴った特別委員会の設置の説明。最後に、今後の展望を語り挨拶とした。

7. 塚原副会長一言

世間を騒がせたことに対する謝罪を行い、第三者委員会報告書指摘部分への反省、塚原千恵子女子強化本部長の1月目途で新たな人へ引継ぎ、本部長職を移行する事。また、本人からの伝言として、世間を騒がせたことへのお詫び、報告書にて指摘されたことへの反省、今後新しい強化本部長へ交代し、引継ぎを行うこと。2019年ドイツ世界選手権へのメダル獲得への期待、女子体操への理解協力を求めたコメントを述べた。

最後に、今後に新しい体操協会のスタートに努力邁進する事を伝えた。

8. 議長選出

定款第4章第16条の定めにより、評議委員会議長は、評議員の中から選出すると定められており、瀧澤康二評議員が議長に選出された。

9. 議事録署名人

定款第5章第26条に基づき、議長の瀧澤康二並びに長谷川輝紀及び鷹西美佳評議員の3名を指名し、議場に諮り、全員異議なく承認された。

10. 瀧澤議長挨拶

会に先立ち、パワハラ問題は難しいが、忌憚なく意見を発し、今後の指針を示せるように議論を活発にすることを目標に掲げあいさつした。

11. 報告事項

報告事項1 第三者委員会報告

議長の指名により、山本専務理事は資料の説明を行った。

第三者委員会は8月29日の宮川選手の記者会見でのパワハラ問題提起によって、立ち上げられた。第三者委員会はその提起に関して9月10日から11月25日にかけて調査を行った。調査の結果、今回提起された内容にはパワハラと認められる案件はなかった。よって、9月から一時停止としていた塚原光男さんの副会長職、塚原千恵子さんの常務理事職、強化本部長職の処分を12月10日の臨時理事会にて

解除した。

また、報告書には日本体操協会へ提言が付された。

- (1) 常務理事会の活性化
- (2) 強化本部の透明化と活性化
- (3) 財政基盤の確立
- (4) コンプライアンス体制の確立
- (5) 強化本部長の職務と権限の明確化
- (6) 国際大会への派遣選手の選考過程の透明化
- (7) 協会と各所属団体とのコミュニケーションの活性化

これらの提言を受けて、「提言事項検討委員会」「特別調査委員会」の設置を決議したことが説明された。

議長は、専務理事の説明に対し、出席評議員全員へ順次質問・意見の有無を諮った。

大島評議員：

評議員会は理事任命責任を持っている。第三者委員会の結論は真摯に受け止める。提言7つのうち、5つが今回のパワハラ関係の提言と認識する。法的には第三者委員会の報告通りであるが、メディアに出て意見を述べていた加盟団体役員に対して不満を持った。メディアへの露出で体操協会の名誉は傷ついた。一般国民が納得できないような形となった事については、イメージダウンの責任論が必要である。しかし、塚原千恵子氏が1月退任とのコメントを聞いて、勇気ある撤退と感じた。

提言内容には大変な努力があるので、提言内容検討委員会にはしっかりやってもらいたい。特別調査委員会と倫理委員会との関係を聞きたい。

山本専務理事：

特別

調査委員会は、パワハラ問題提起以外に倫理規程等に関わることを調べる予定。

加藤評議員：

学校に頼らない教育が増えてきている。民間クラブでの選手への影響力について検討をしてほしい。調査報告については言うことが無い。

長谷川評議員：

報告書には納得。パワハラは受けたものが感じたらパワハラと思うが、説明されている。山本専務理事に仕事が偏っている。仕事を分担することを提言したい。

鷹西評議員：

今年前半はスポーツ界の嵐に巻き込まれた。日大の対応と比較し、第三者委員会への対応は良かった。メディアは面白おかしく取り上げるので、役員は大変だっと思う。言葉使い、態度に気を付けていただきたい。

柳評議員：

第三者委員会には敬意を示し、感謝を申しあげたい。日本協会のガバナンスが足りなかったかなと反省する。有識者を入れて観点を広める必要があるのではないかと感じる。特別調査委員会は何を調査するのか？指導の現場をすべて倫理規程等に当てはめると危険であると感じる。倫理規程を恐れて黙っているのが良い世界となってしまう。

山本専務理事：

特別調査委員会は、報告書に登場する人物や、今回の件に関する人物・事象で倫理規程等に関わるかを判断する。

長澤評議員：

8月15日の速見コーチの資格はく奪は全日本ジュニアの真っ只中であつた。体操協会は冷静に判断するべきだっと思う。全日本ジュニア連盟は昨日理事会を行つた。この件に関してメディアに登場した加盟団体役員に対してはジュニア連盟の理事会で各メディアへの対応は本人に任せる事が確認された。全日本ジュニア連盟としてメディアに出したことはなかつたし、肩書を使用することも認めなかつた。今後の問題が重要だ。審判の問題も重要。千恵子さんが撤退したらメダルとれないのではないかとっ思う。

崇島評議員：

第三者委員会の報告書でパワハラではないとなつたのに、一部メディアが面白おかしく報道をしている。原因を探ると、具志堅副会長の「18歳はウソつかない」「膿を出す」とのコメントから、メディアを通じた集団ヒステリーとなつたのではないか。池谷氏、森末氏がその集団ヒステリーに乗かつてメディアで発言していた。具志堅副会長の発言の真意を知りたい。「18歳はウソをつかない」は18歳は知性が無いとの侮辱発言でもあるとっ思う。集団ヒステリーになつてしまい、根本の暴力指導がフェードアウトしてしまつた。暴力対策に立ち返つて欲しい。

具志堅副会長：

今でも「ウソをついていない」とっ思っている。「膿を出さないといけない」は塚原さんを言っているのではなく、地方で起こっている暴力問題など他の色々の事に対して言つたことである。

慶野評議員：

記者会見では驚いたが、選手の事を立ち返つて考える時間が取れることとなつた。再度深く考へていく必要性を感じた。

大橋評議員：

今回のパワハラ問題の塚原さんが宮川選手自宅へ電話して話したこと以外は、グレーな判定だったと思うが、日本協会への未来を期待したい。

藤田評議員：

臨時評議員会前に、各地方担当者と話をした。マスコミの影響が強いと感じた。結果は真摯に受け止め、提言を受け、前向きに一丸になればよいと感じた。

渡邊一郎評議員：

塚原副会長がマスコミに出ていたが、協会がどの程度事前に出演予定を把握していたか知りたい。第三者委員会にゆだねたのならば、メディアに出ないで第三者委員会の報告まで自重してほしかった。組織への協調性をもってほしかった。今後の事は提言事項検討委員会へ期待したい。審判問題もあると思うので、強化本部長への権限を含め、新役員人事への考えを知りたい。各意見を取り入れる人事を願いたい。

山本専務理事：

塚原副会長へは副会長としての仕事、メディア露出は控えてもらうことは伝えた。役員選考については役員選考委員会にて検討していく。

塚原副会長：

メディアへの露出は名誉棄損、侮辱への正当防衛目的で出演したが、控えるように言われ控えた。

渡辺栄一評議員：

第三者委員会の内容は、質問してきた方に説明できる内容であったのでありがたく思っている。今後委員会の内容を地方に積極的に報告してほしい。

森評議員：

今回の件は残念と感じた。第三者委員会もメディアに出てほしかった。早くこの騒動が収まって、未来に向かって欲しい。

白石評議員：

具志堅副会長のコメントは、自分は賛成であるが、言葉を選んでほしかった。塚原副会長の「全部ウソ」発言も言葉を選んでほしかった。是非言葉には気を付けてほしい、選手を第一に考えてほしい。

知念評議員：

今回の体操の問題は一般の方も興味があった。パワハラ問題は数年前の調査をやっていた。パワハラ根絶ポスターで良い影響になると思ったが、昨今は何かあると動画撮影が増えている。第三者委員会の報告で結論が出て、安心している。全国調査する事と今後策を設けて良い未来を作って欲しい。

瀧澤議長：

まずは、役員に御礼を申し上げる。適切な対応であったと感じている。第三者委員会へも感謝する。塚原副会長、千恵子強化本部長の名誉ある撤退に感謝する。文化、言葉の違いは苦勞した経験から言葉にはこだわりを持っている。暴力の意味を考えたい。パワハラは暴力の種概念である。法律や教育も暴力である。国民全体がこの事を理解してないので問題が拡散した。世の中に正しい行為行動はあり得ない。お互いに理解し合いながら仲良くやる必要がある。冒頭の塚原さんのあいさつはこの理念に該当すると感じる。

これからが重要であると感じている。役員には今後の事を主に考えてほしい。スポーツ界のモデルを目指してほしい。

報告事項 2 特別調査委員会メンバーについて

議長の指名により、渡邊事務局長は資料の説明を行った。

特別調査委員会は今回の原因・反省を踏まえて、再発防止の観点から、整理していく。委員長は高橋監事、委員に二木会長、竹内審判委員長、米田アスリート委員長、その他必要なら外部の方を調整予定。スケジュールは1月に活動開始、早く結論出せる様活動していく。

報告事項 3 提言事項検討委員会メンバーについて

議長の指名により、渡邊事務局長は資料の説明を行った。

提言事項検討委員会は今回の提言を受けた 7 項目を中心に提言内容に対する改善案の作成を中心に整理、推進する予定。

委員長は竹田監事、委員に二木会長、水鳥男子体操本部長、山崎新体操本部長、山本専務理事、外部委員に太田雄貴日本フェンシング協会会長、森岡祐策日本スポーツ協会常務理事。スケジュールは1月に活動開始、3月の理事会で報告することを目標とし活動していく。

議長は、事務局長の説明に対し、質問・意見の有無を議場に諮った。

